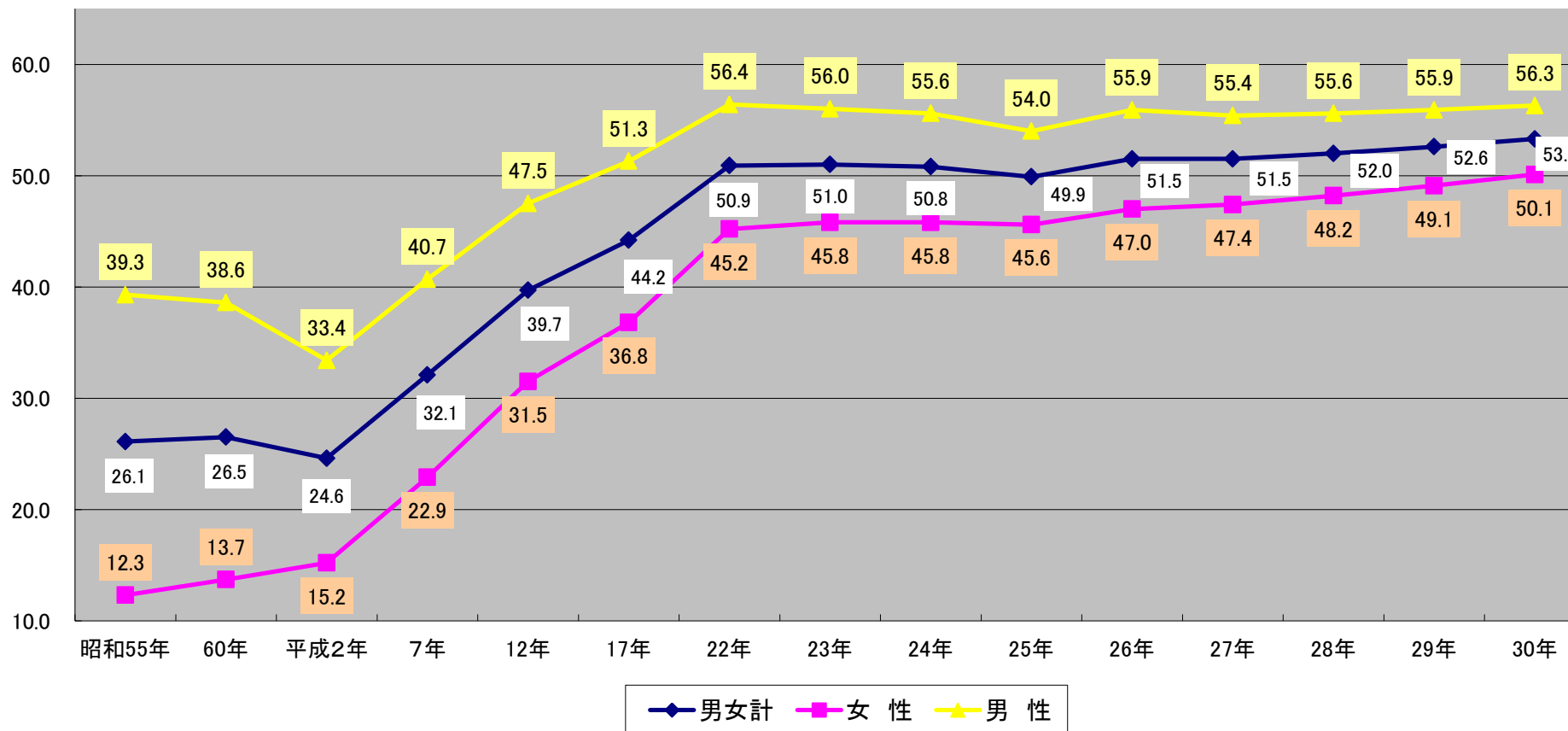


大学進学率の推移(全国)

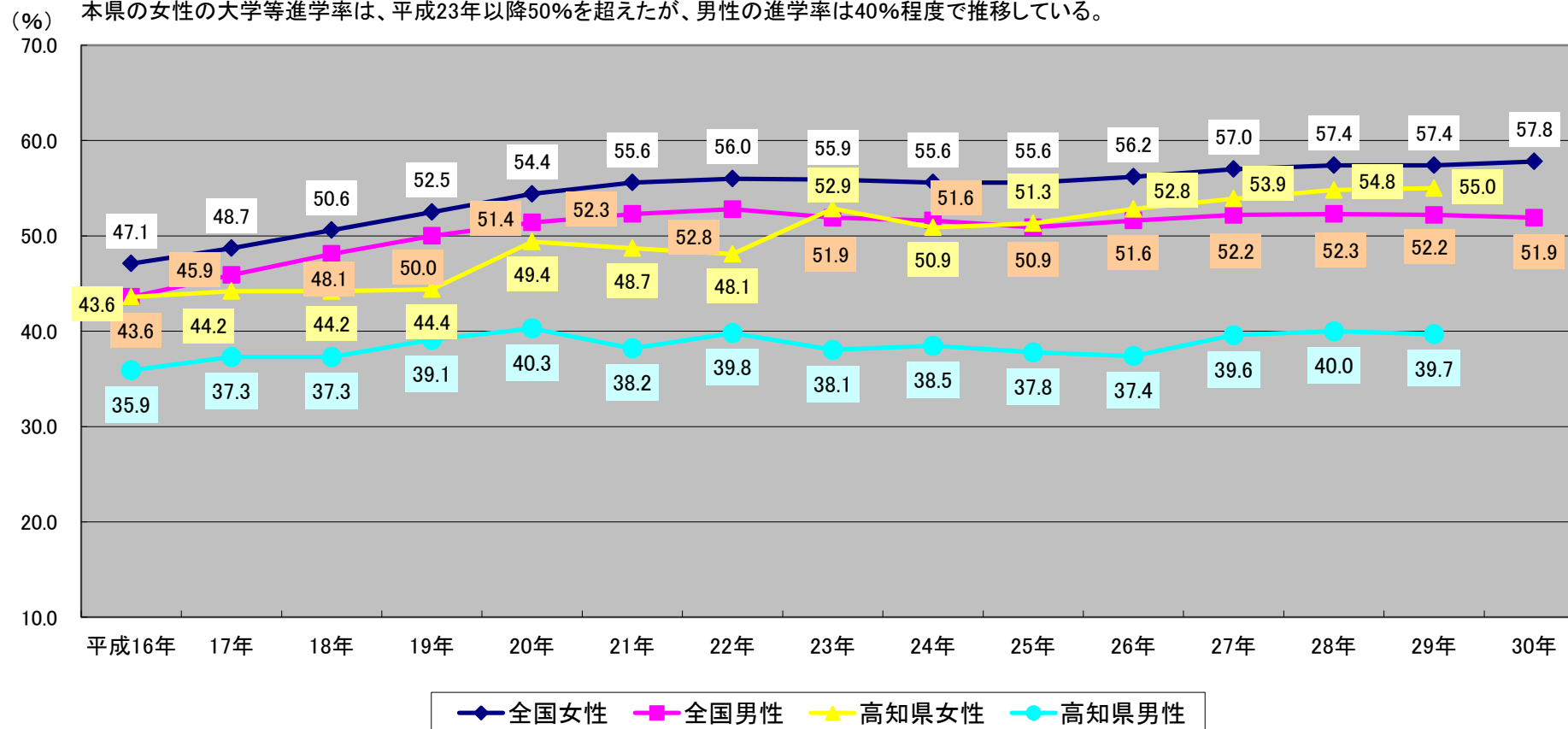
(%) 大学(学部)への進学率は年々増加しており、男女共に半数近くの者が大学へ進学している。男女の大学(学部)への進学率の差は徐々に差は少なくなっているものの、女性の方が7%程度低い状況が続いている。



資料: 文部科学省「学校基本調査」による。大学(学部)への進学率(過年度高卒者等を含む)。大学学部入学者数(過年度高卒者等含む)を3年前の中学卒業者で除した比率。

大学等(大学+短期大学)進学率の推移

全国・本県ともに短大等を含めると男性よりも女性の進学率が高い。また、全国男女の大学等進学率はここ10年ほぼ横ばいである。
本県の女性の大学等進学率は、平成23年以降50%を超えたが、男性の進学率は40%程度で推移している。



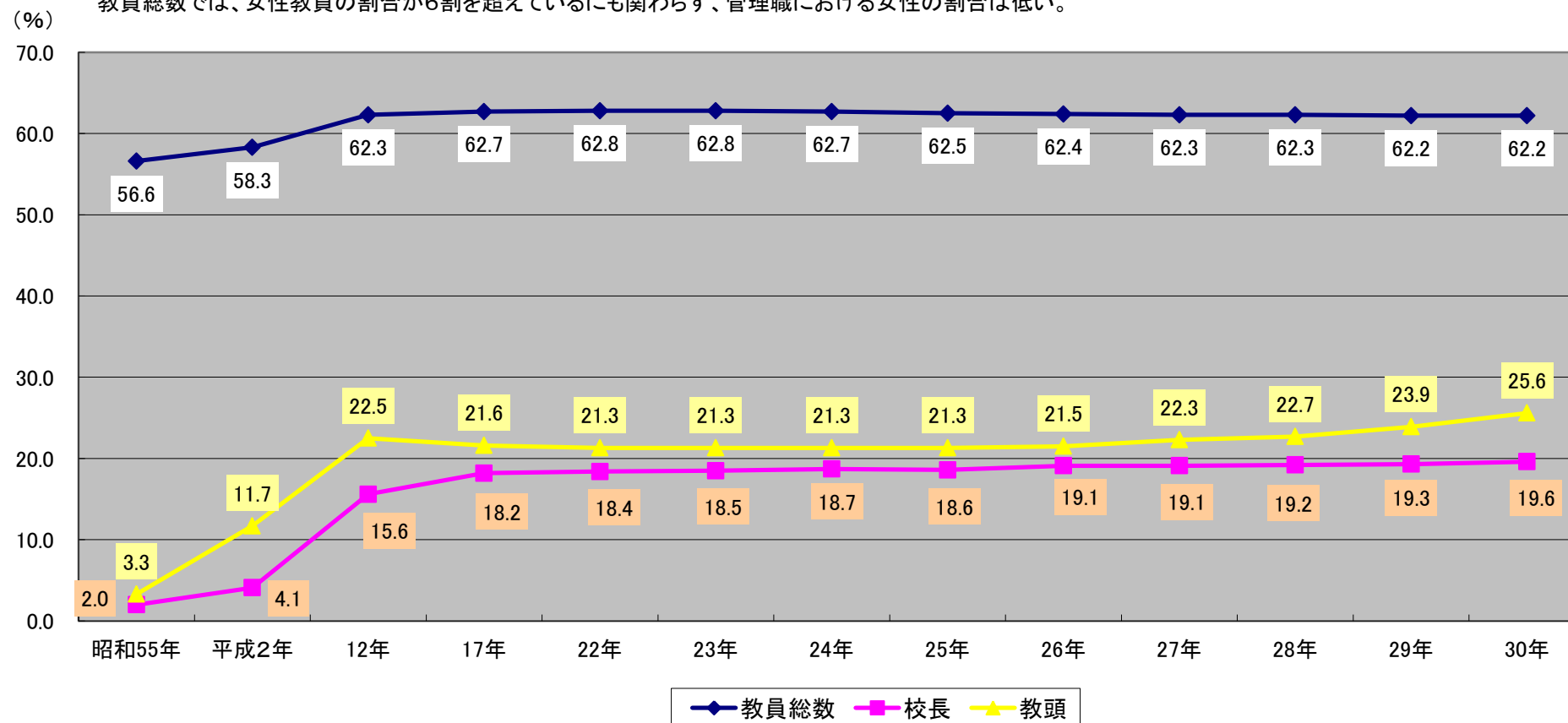
資料：文部科学省「学校基本調査」及び高知県教育委員会「教育調査報告」による。

※全国の数値は、高等学校及び中等教育学校後期課程本課卒業者のうち、大学の学部・通信教育部・別科、短期大宅の本科・通信教育部・別科及び高等学校等の専攻科に進学した者(就職進学した者を含む。)の占める比率。

※本県の数値は、(進学者数/卒業者数)×100(%)

「小学校」の管理職等に占める女性の割合(全国)

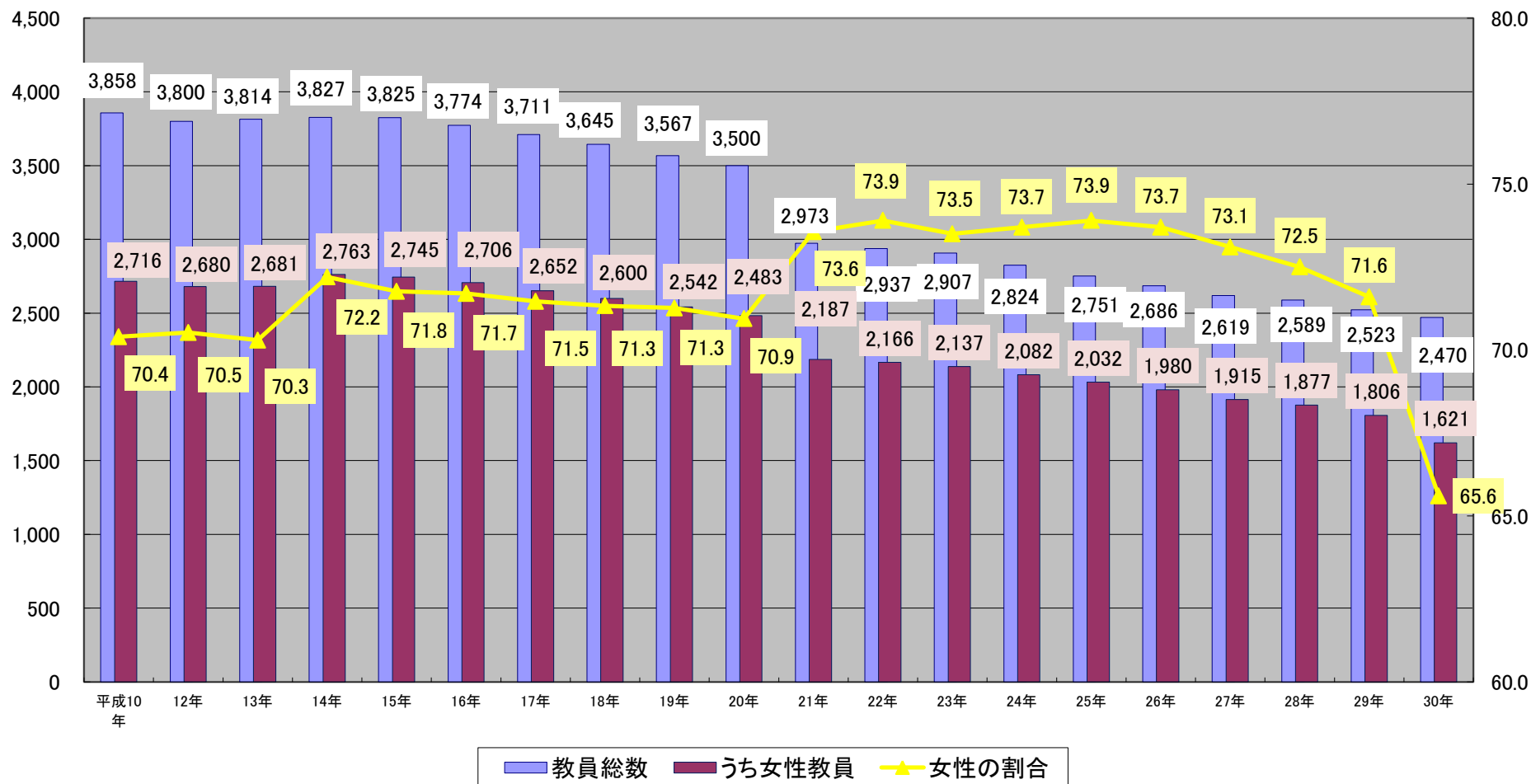
小学校の管理職等に占める女性の割合は、平成12年以降、教員総数で60%強、教頭で20%強、校長で19%代で横這いである。
教員総数では、女性教員の割合が6割を超えているにもかかわらず、管理職における女性の割合は低い。



資料: 文部科学省「学校基本調査」による。各年5月1日現在。本務教員対象。

小学校における女性教員の数とその割合（高知県）

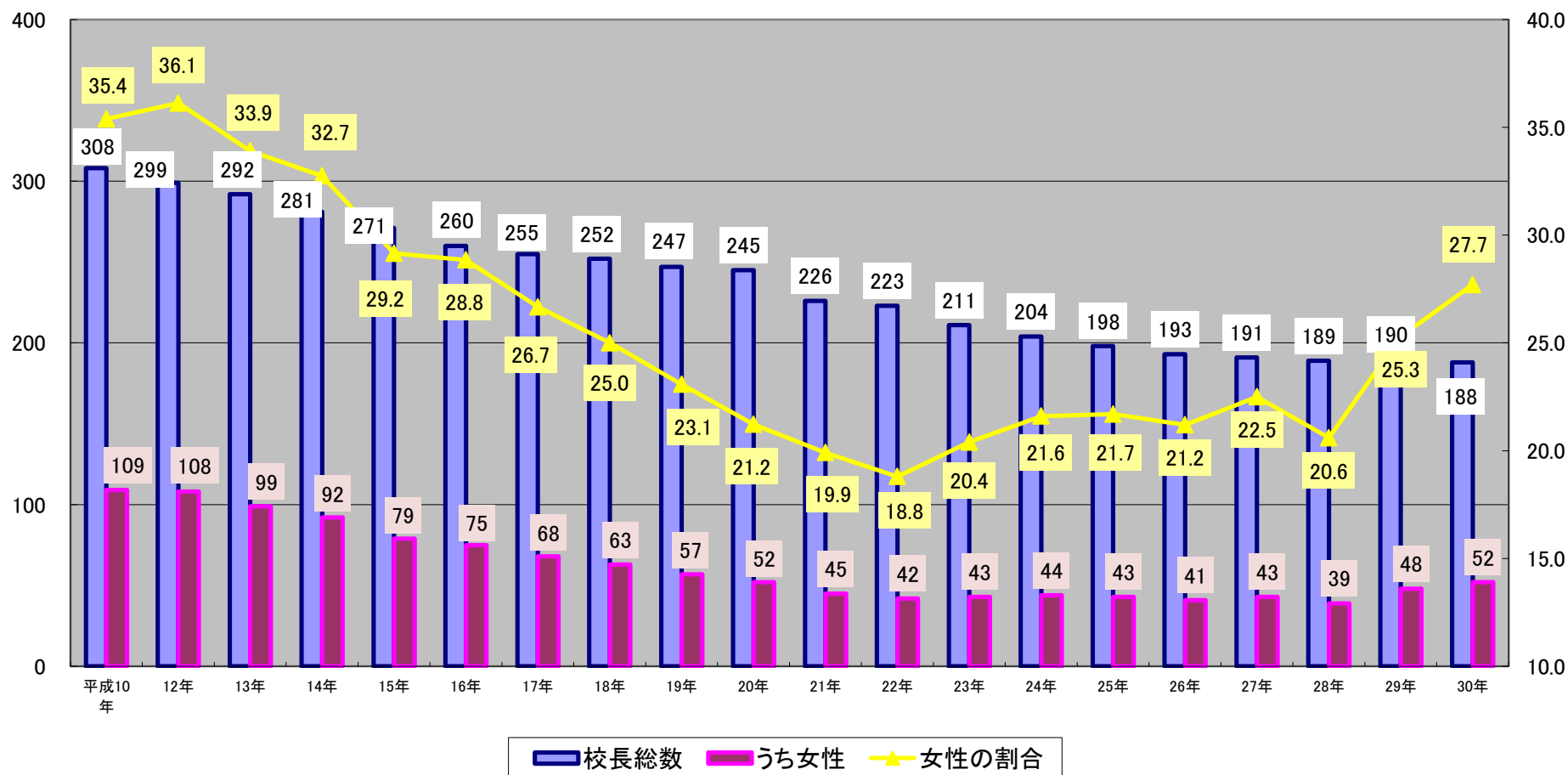
（人） 平成29年度まで70%を超える水準で推移してきていたが、平成30年度に70%を切り65.6%となった。



資料：高知県統計分析課「平成30年度版 県勢の主要指標」による。

小学校における女性校長の数とその割合（高知県）

（人） 本県の小学校における女性校長数の割合は、平成30年度に27.7%となった。

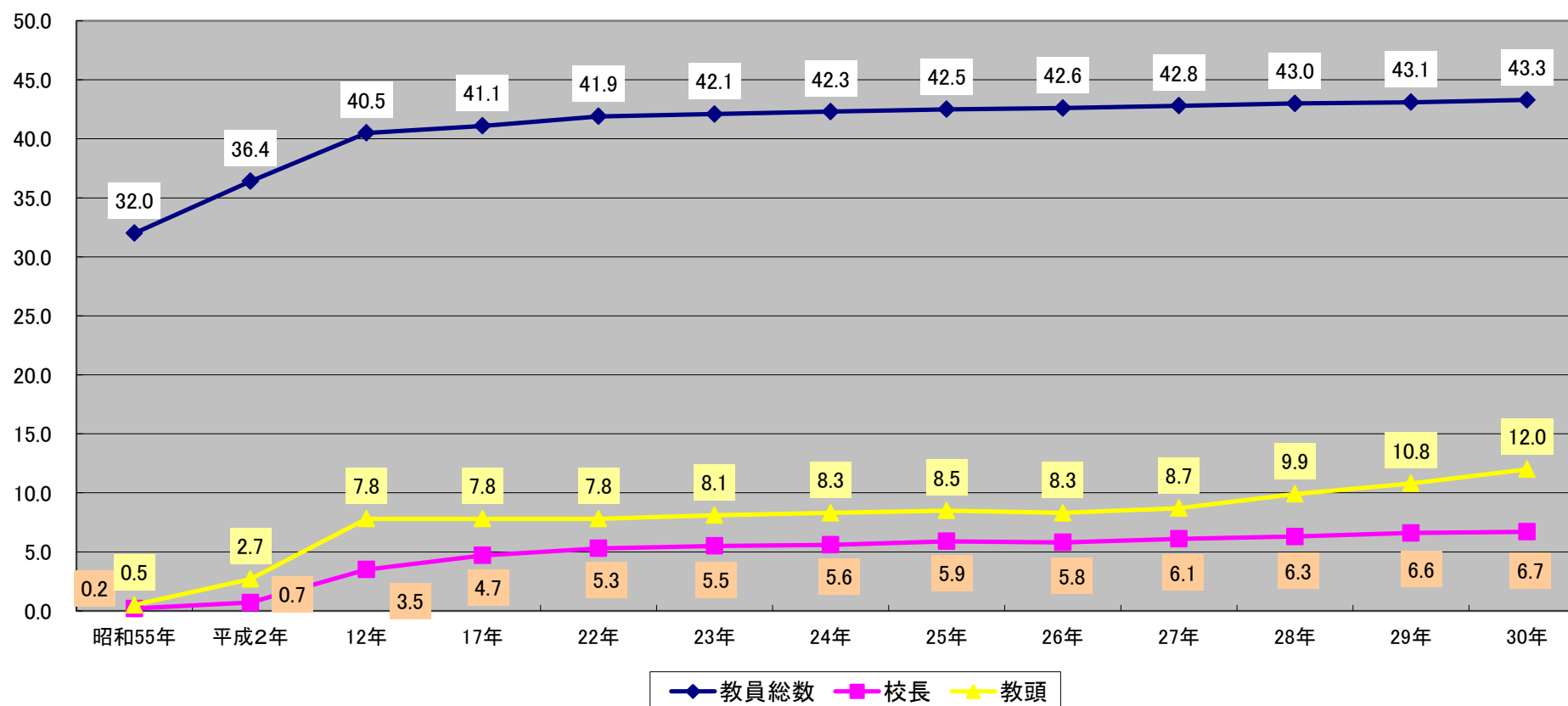


資料：高知県統計分析課「平成30年度版 県勢の主要指標」による。

「中学校」の管理職等に占める女性の割合(全国)

中学校の管理職等に占める女性の割合は、平成30年には教員総数で43.3%、教頭で12.0%、校長で6.7%となり、わずかではあるが増加傾向にある。しかし教員総数では、女性教員の割合は4割を超えているにもかかわらず、管理職における女性の割合は極めて低い。

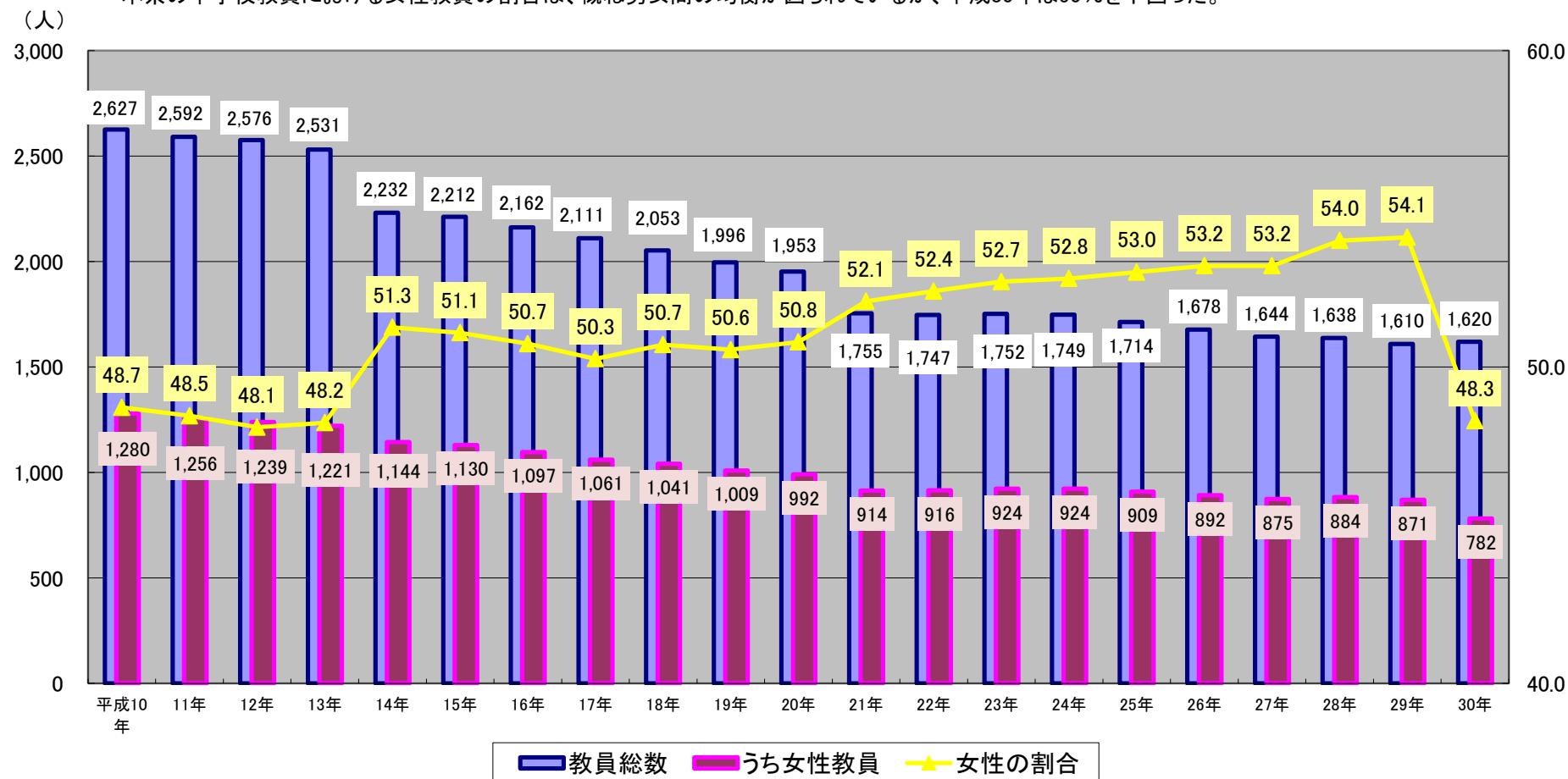
(%)



資料:文部科学省「学校基本調査」による。各年5月1日現在。本務教員対象。

中学校における女性教員の数とその割合（高知県）

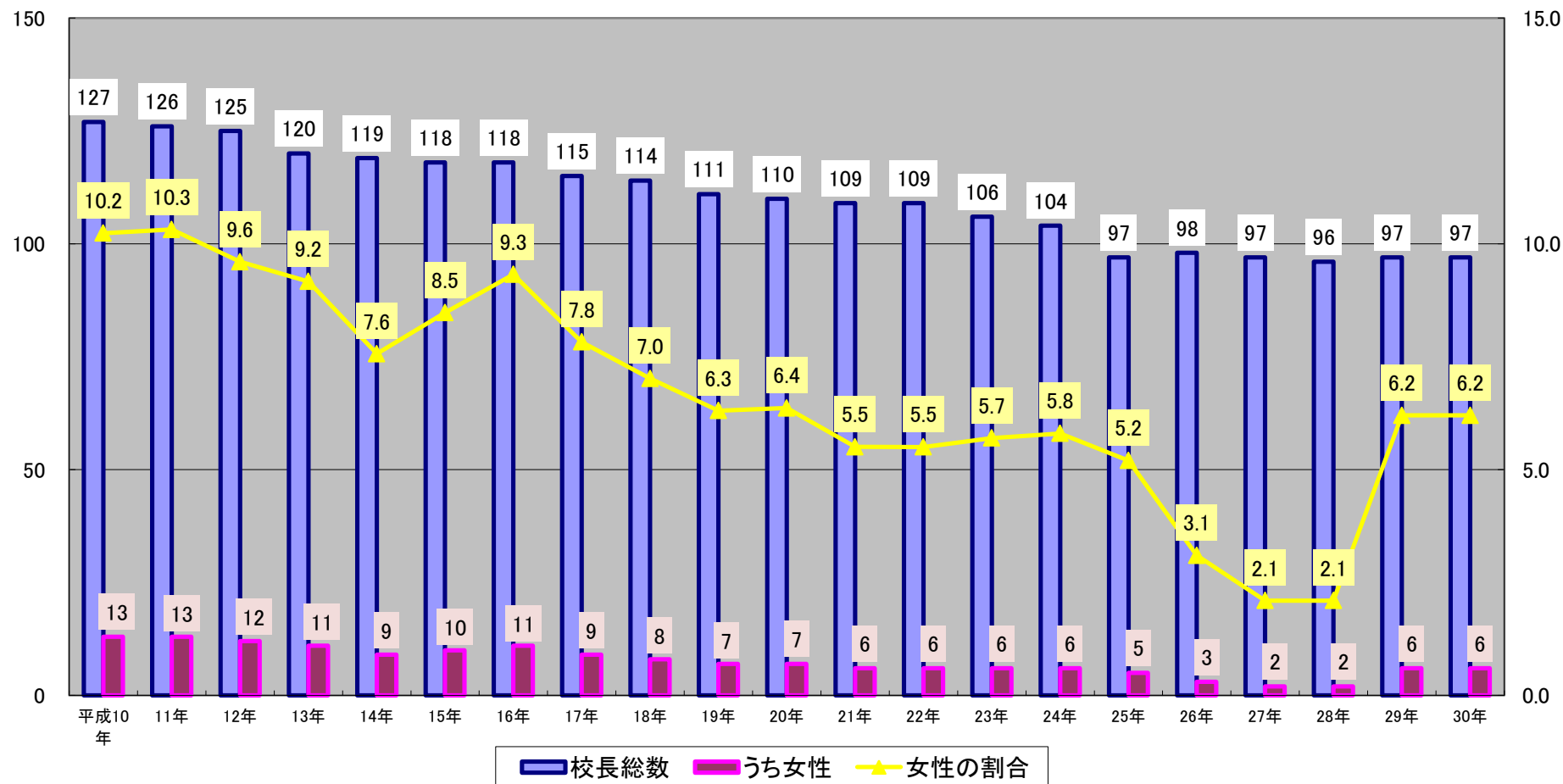
本県の中学校教員における女性教員の割合は、概ね男女間の均衡が図られているが、平成30年は50%を下回った。



資料：高知県統計分析課「平成30年度版 県勢の主要指標」による。

中学校における女性校長の数とその割合（高知県）

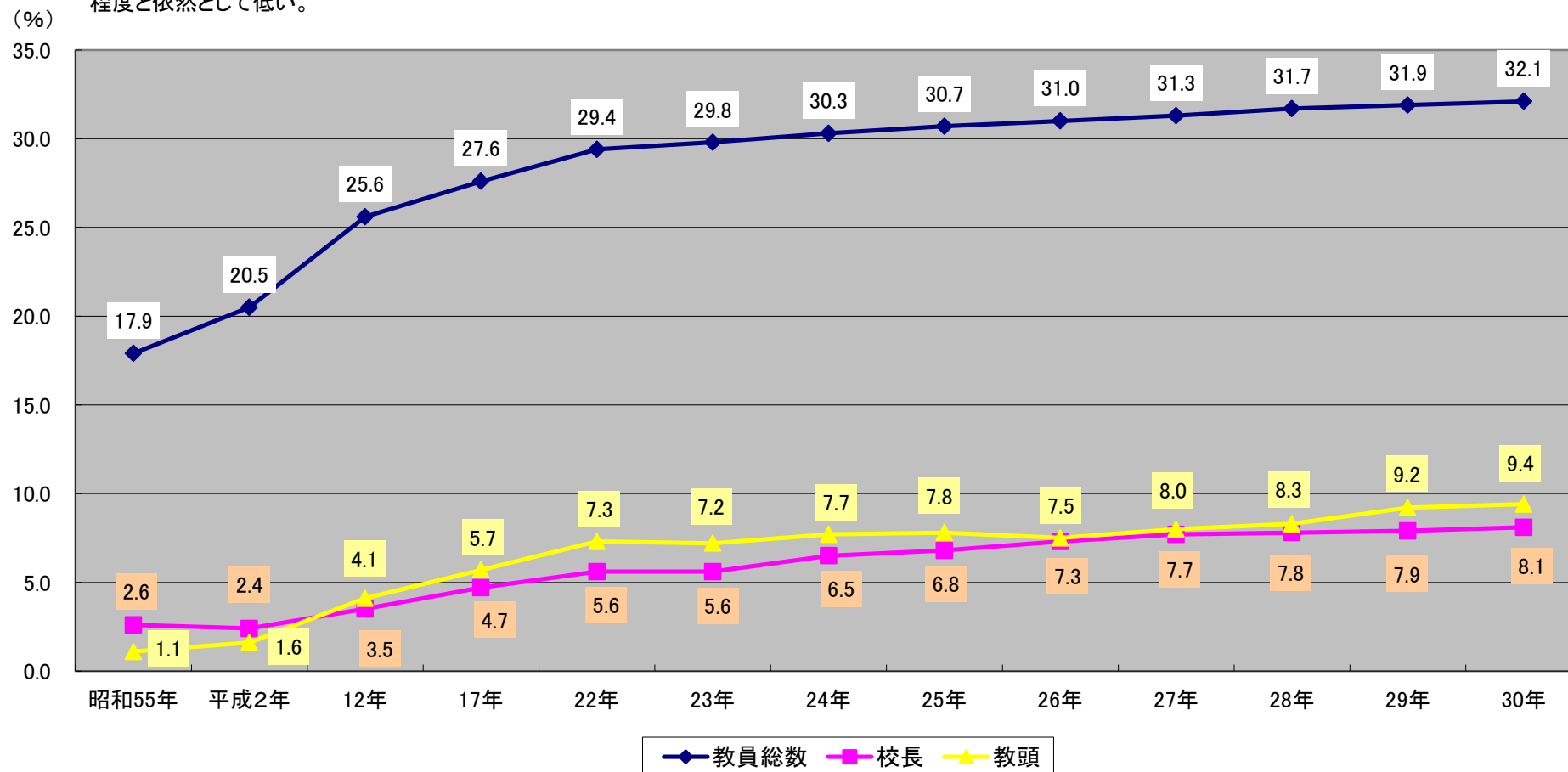
（人） 教員に占める女性教員の割合は概ね50%程度で推移しているにも関わらず、校長に占める女性は平成29年度からは6名まで回復をしたものの、その割合は1割にも満たない。



資料：高知県統計分析課「平成30年度版 県勢の主要指標」による。

「高等学校」の管理職等に占める女性の割合(全国)

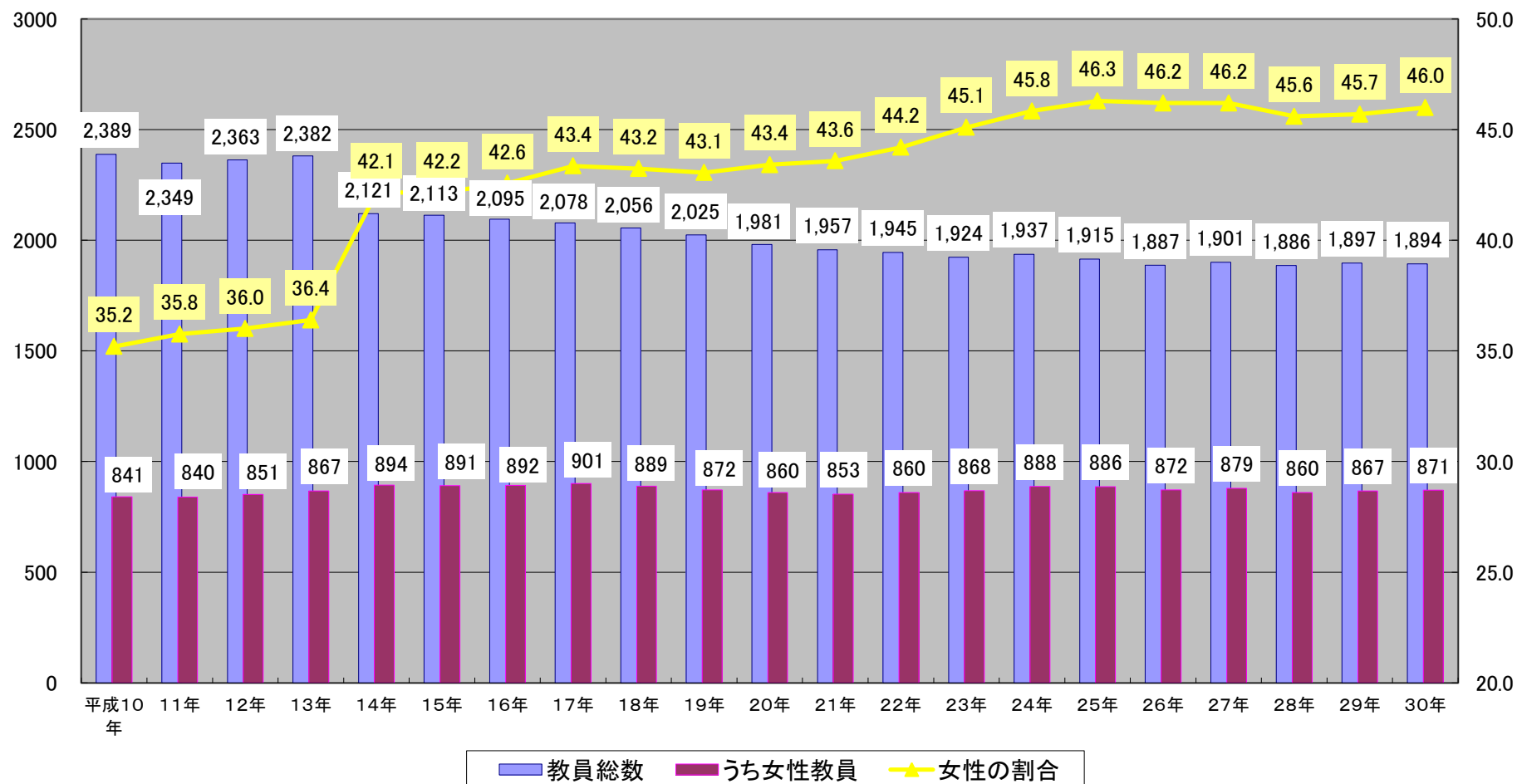
高等学校の管理職等に占める女性の割合は、平成17年以降微増傾向にあるが、極めて低い状態にある。また教員総数に占める女性教員の割合も3割程度と依然として低い。



資料：文部科学省「学校基本調査」による。各年5月1日現在。本務教員対象。

高等学校における女性教員の数とその割合（高知県）

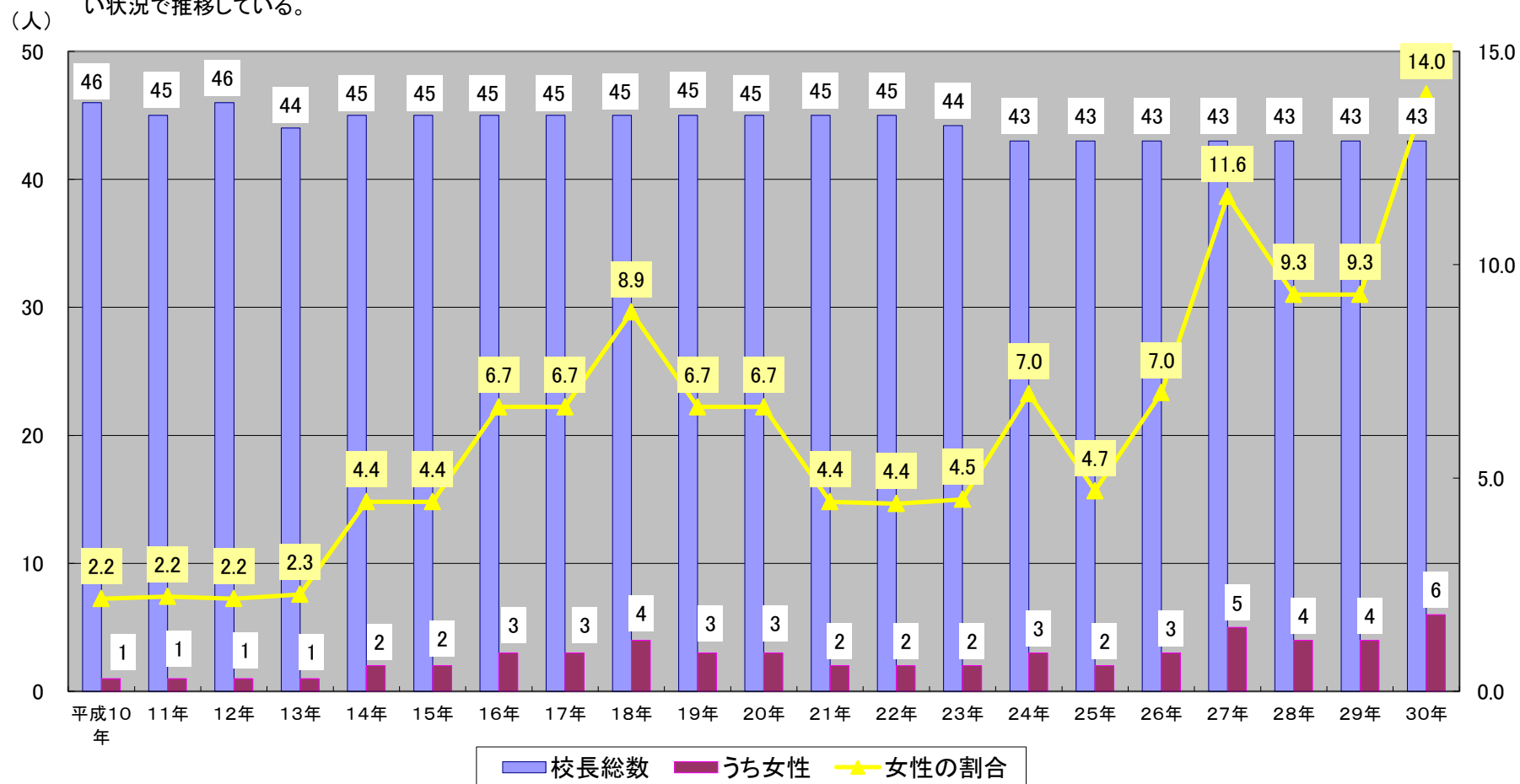
（人） 本県の高等学校における女性教員の割合は、ここ数年横ばい状態にある。



資料：高知県統計分析課「平成29年度版 県勢の主要指標」による。

高等学校における女性校長の数とその割合(高知県)

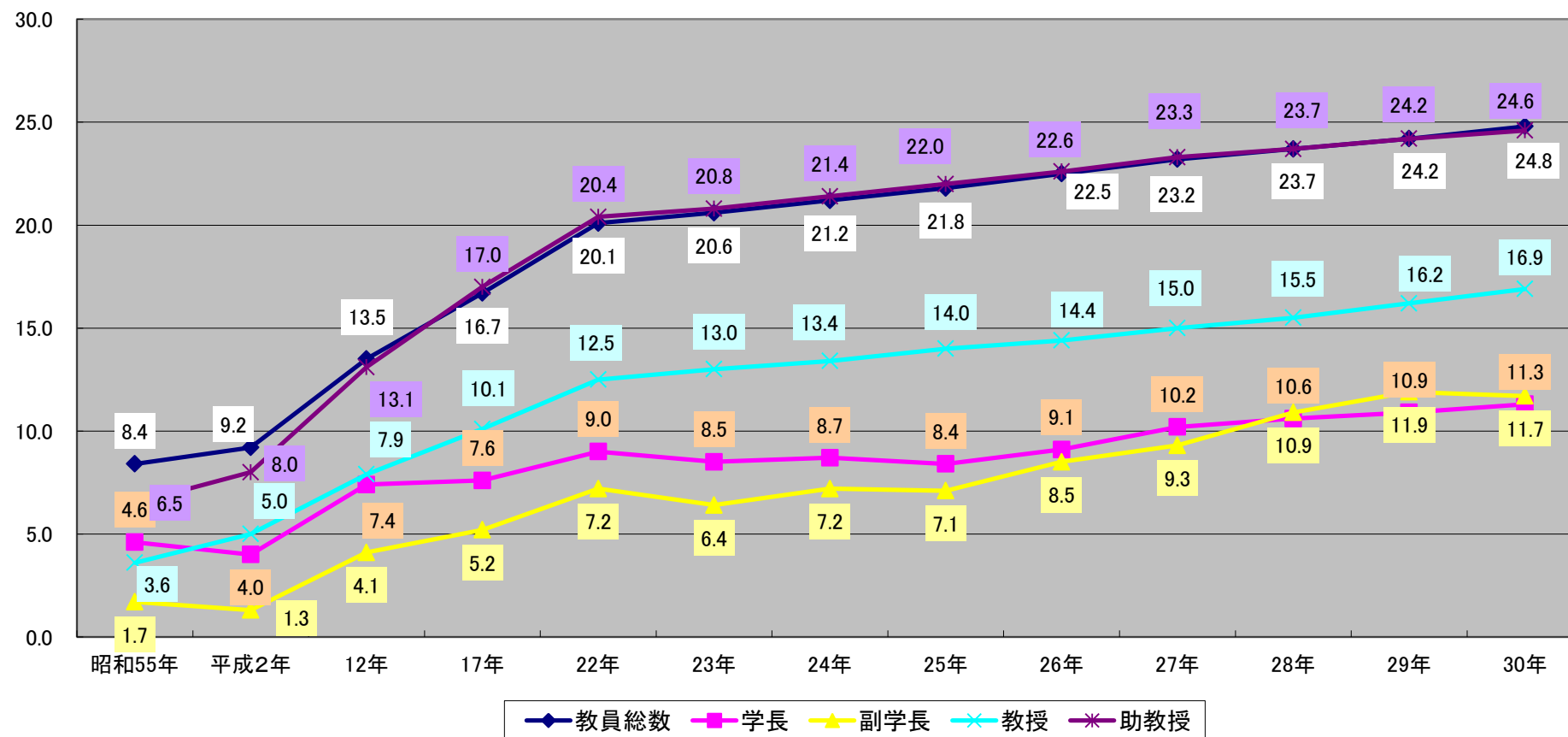
本県の高等学校における教員に占める女性の割合は4割を超えているにもかかわらず、校長に占める女性の割合は27年度をのぞくと、1割に満たない状況で推移している。



資料:高知県統計分析課「平成29年度版 県勢の主要指標」による。

「大学」の管理職等に占める女性の割合(全国)

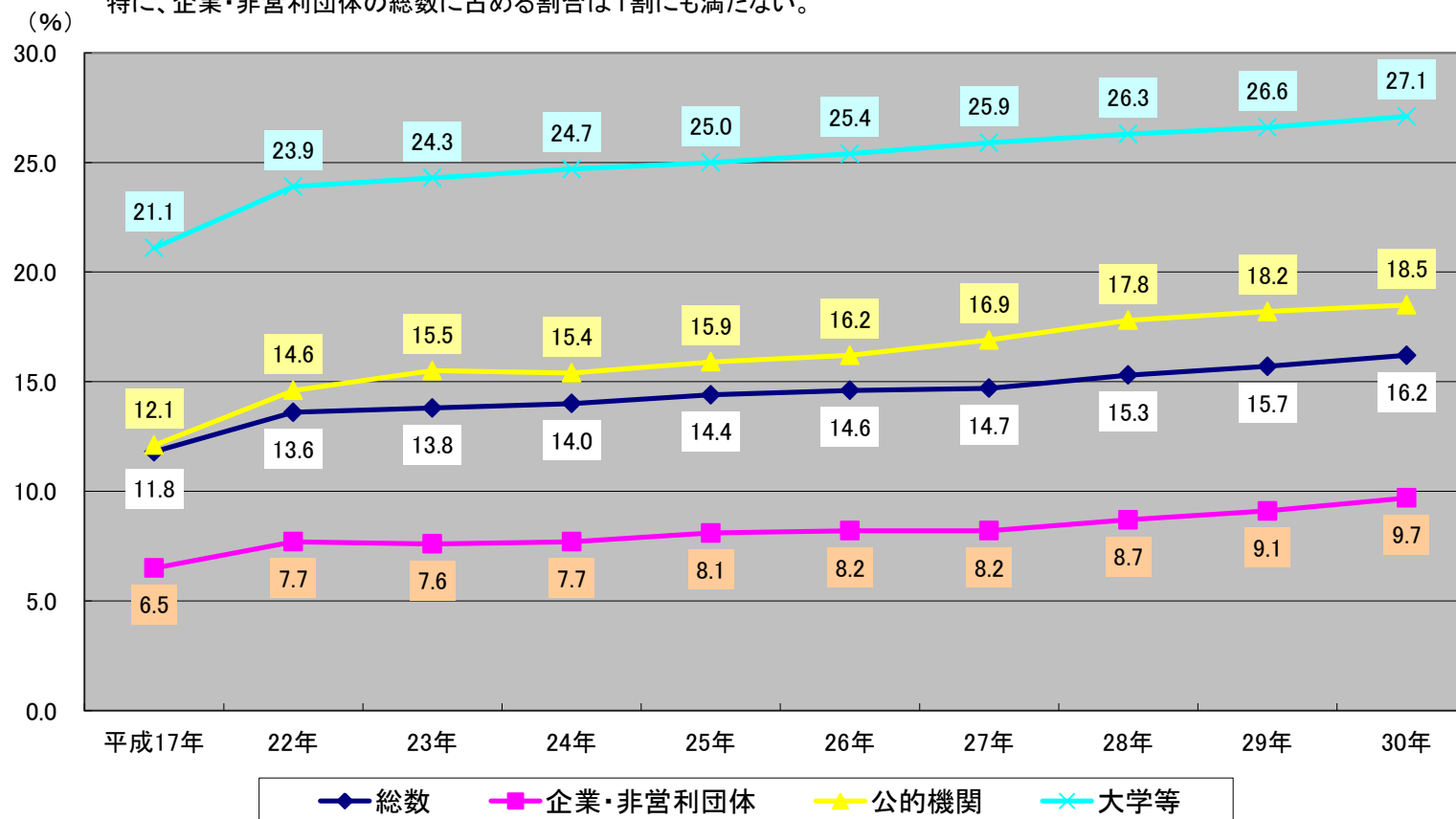
(%) 大学の管理職等に占める女性の割合は、教員総数および助教授、教授はわずかながら増加傾向にある。しかし、助教授までの割合は教員総数に占める女性割合と概ね一致するが、学長および副学長に関しては依然として10%前後である。教授は平成30年に約20%まで上昇してきたものの、依然として女性の割合は低い。



資料：文部科学省「学校基本調査」による。各年5月1日現在。本務教員対象。

研究主体別 研究者に占める女性の割合(全国)

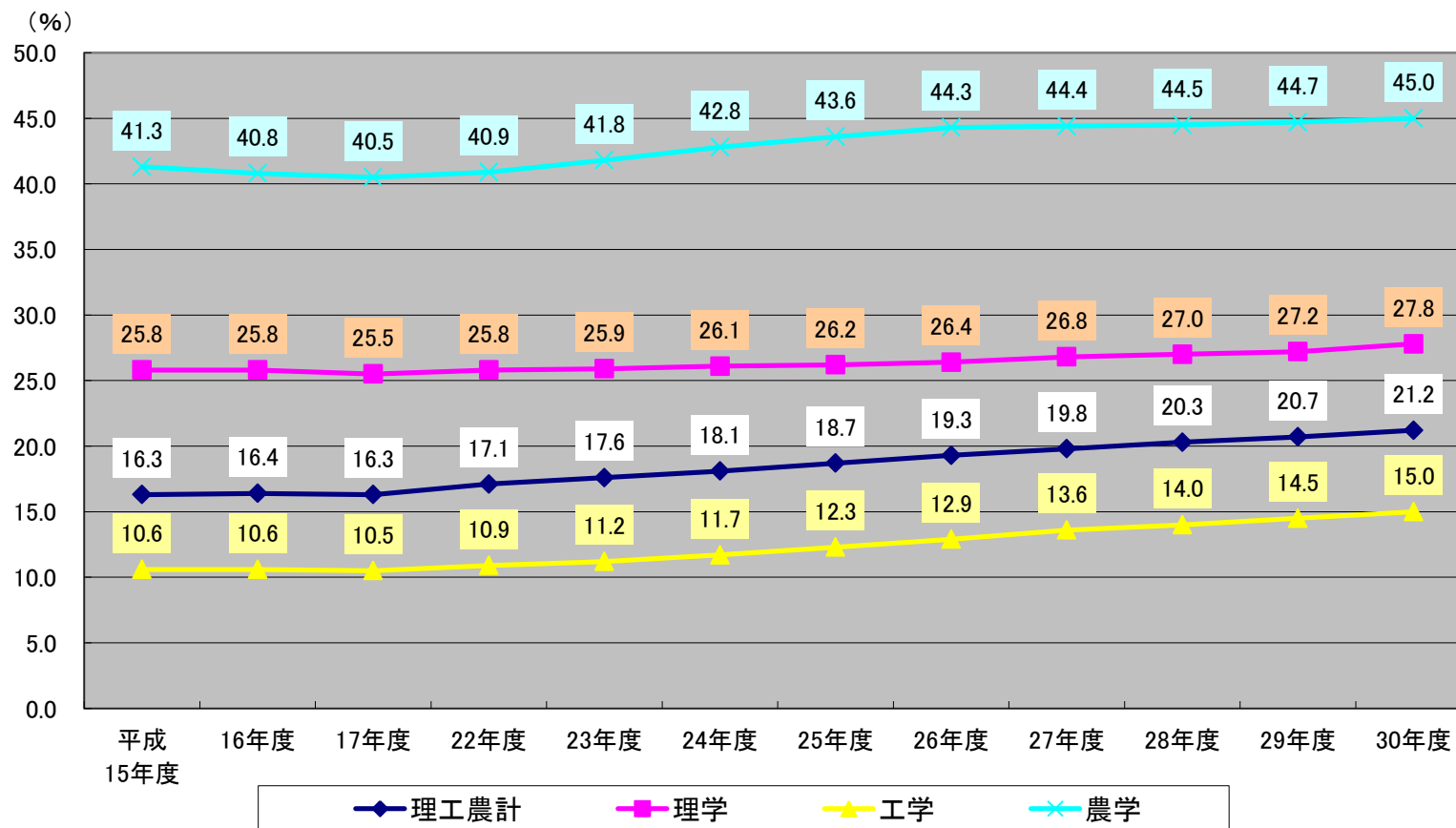
どの研究主体においても、研究者に占める女性の割合は3割に満たない極めて低い水準で推移している。
特に、企業・非営利団体の総数に占める割合は1割にも満たない。



資料：総務省「科学技術研究調査報告」による。3月31日現在の数値。平成24年に調査対象範囲を整理したため、前年までと区分を変更した。元データにより、29年の「公的機関」の数値を修正。

理工農系の学生に占める女性の割合(全国)

農学系においては、学生に占める女性の割合は4割強程度で推移しているが、理工農系全体としては2割程度で推移しており、特に、工学系における割合が低くなっている。



資料: 内閣府男女共同参画局「女性の政策・方針決定参画状況調べ」による。